

環境テクシス

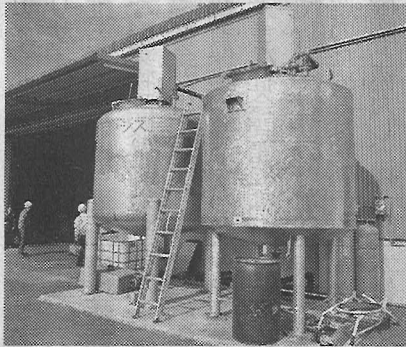
原料に応じた食りを展開

脱水モヤシなど有価受入も

愛知県豊川市内で食品残さの飼料化や汚泥発酵肥料の製造を手掛ける環境テクシス(同市、高橋慶社長、☎0533・87・5512)は、多種類の食品残さを性状ごとに細かく分類し、最適な方法でリサイクルする独自の事業を展開している。処

理費を徴収して受け入れる残さだけでなく、飼料価値の高い食品製造副産物や余剰食品を有価で買い入れ、養豚農家などに販売する取り組みにも積極的だ。同社は産廃と一廃で処分業の許可を取得しており、核となる飼料化設備は、1日当たり

液状飼料化などを手掛ける環境テクシスの本社工場



約60トの処理能力がある。飼料原料としては現在、食品工場の残さを中心にして1日当たり約10トを受け入れ、性状

おり、最近では、オンサイトで脱水したモヤシなども扱い量が増えているという。3月5日には、全国

に応じて液状飼料と乾燥飼料につくり分けている。有価物としては小麦粉や酒かすなどの製造副産物や、余剰食品のうどん、パン、米飯などを受け入れており、高橋社長は参加者の質問に答え、「配合飼料の価格が高騰するなかで、自家配合を行うという指導しながら、エコフィードを使ってもらえるように努力している」と語っていた。